

J. Sights Corporation

ナミビア産ロブスター 23-24 シーズンの見通し

2023 年 12 月 7 日

J サイト株式会社 担当: 齋藤 俊 | 島尾 裕子

[お問い合わせ](#)

当社が日本の総代理店を務めるナミビア産イセエビの 2023-2024 シーズンの開始に合わせて、近年の動向と今シーズンの見通しを以下にまとめる。

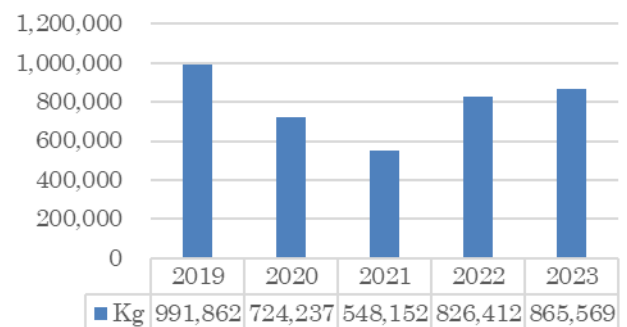
1. 5 年間のロブスター総輸入量と各国のシェア

まずは、通関統計からみた過去 5 年間輸入量を参考に近年の推移を振り返る。

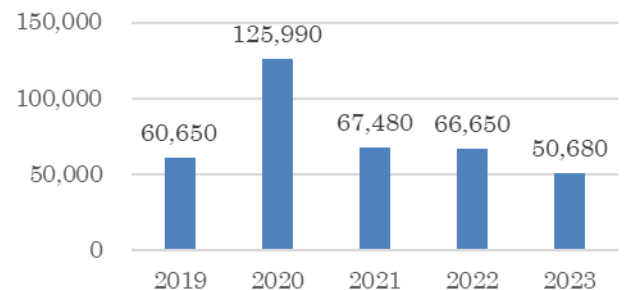
2019 年から 2023 年までの 5 年間のロブスターの輸入量の推移は、右図[1]の通りで、コロナ禍が長引き外食需要が著しく減少したことを受けた。2020 年、2021 年と取引量が激減し、足元 2 年間でようやくコロナ前の数量に近づきつつある。

[図 2]はナミビアからの輸入量、[図 3]は年度ごとの各国のシェアの推移。当社が扱っているナミビア産ロブスターは、2020 年を除いて輸入量が限られている状態にある。中国のナミビア産ロブスター市場参入が活発になり多くが中国に渡ったことも影響し、日本向けに輸出される量は、減少傾向が続いている。

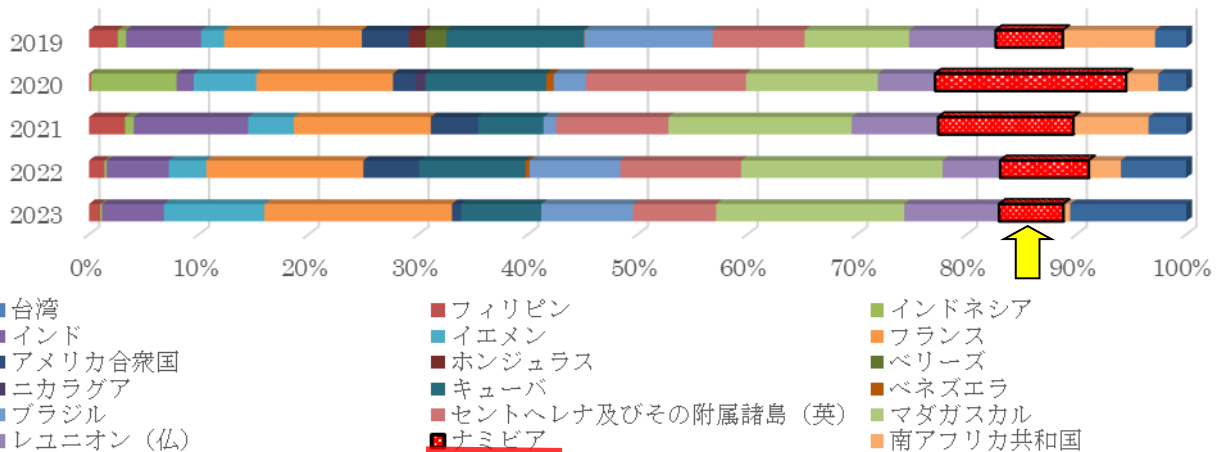
[図 1] ロブスター輸入量推移 (kg)



[図 2] ナミビアからの輸入量推移 (kg)



[図 3] 各年のロブスター輸入総量に対する各国のシェア推移



J. Sights Corporation

2. 23-24 シーズンの見通し

当社のナミビア産ロブスターの輸入数量見通しは、23-24 シーズンも輸入数量が限られた難しい状況が続くと考えている。中国では自宅等で中型から小型サイズのロブスターを食べる習慣が根付きつつあり、ナミビア産ロブスターの需要が中国国内で強まっている要因と考えられる。こういった傾向は当面変わることが考えづらく、中国向けに多くのナミビア産ロブスターが輸出されることが考えられる。ナミビア産ロブスターに限らず海外から輸入するものは様々な国との競争(価格面や支払い条件、購入数量等)にさらされ、より一層仕入れることが困難になりつつある。

一方、ナミビア産ロブスターの 23-24 シーズンにも明るい材料は存在する。以前にレポートを掲載した通り今年の 2 月下旬から 3 月上旬にかけて齋藤俊が出張でナミビアを訪問した。その際にはサプライヤーの CEO、漁業省の事務次官、漁師など多くの方と会議・夕食を共にした。様々な場面でナミビア(国、企業、漁師様々な方面)にとっての日本との取引を続けるメリット(中国は Price Buyer であり、日本向け取引は将来も安定した需要が見込めること)を強調した結果、23-24 シーズンでは 80Mt 以上を日本へ輸出できるよう最大限つとめるという内容が Namrock の CEO と漁師の間で合意となった。今シーズンはその合意が着実に履行されるよう、当社としても注意深く取り進める所存。

当社はより多くのナミビア産ロブスターを輸入し、日本に安定供給することを最重要事項と考えている。しかし前述の通り、海外との競争が激化している中で輸入数量を増加させることは困難を極める。こういった環境下では 23-24 シーズンにおいても早めにご購入いただくことが数量確保において最も重要であり最良と考えている。

最後に、2024 年 1 月下旬より齋藤俊が再度ナミビアへ出張する予定となっている。現地の状況など確認、出張後には様々な情報発信を予定している。